

< 研修報告 >

令和7年度専門課程 I
保健福祉行政管理分野

オンライン診療 (D to P with N) における看護師の医行為等の現状と
課題に関する研究

原田昌範

**A Study on the Current Status and Challenges of Medical and Related
Practices Performed by Nurses in Online Medical Care
(Doctor-to-Patient with Nurse)**

HARADA Masanori

抄録

目的 人口減少・高齢化が進むへき地での医療アクセス確保に向け、看護師同席型オンライン診療 (D to P with N) における看護師が実施する医行為等の実態、課題、および今後のニーズを明らかにすることを目的とした。

研究デザインと方法 2025年に実施された、D to P with N経験のある医師・看護師81名を対象としたオンライン調査データを二次利用し、医行為等の実態や属性別の実施状況等について割合を算出し、勤続年数と医行為経験数の関連について分析した。

結果 看護師はアセスメントに加え、遠隔指示下での検体採取や創傷処置等の医行為を幅広く実践していた。特に特定行為研修修了者は未修了者より侵襲的な医行為を有意に多く実施しており、勤続年数と医行為等の経験数にも正の相関が認められた。また、今後の実施意向も高く、潜在的なニーズが示された。

結論 D to P with Nは、へき地医療の質向上に資する可能性が示唆された。普及には、教育体制の整備に加え、責任の明確化や診療報酬上の適切な評価といった制度的課題の解決が求められる。

キーワード：オンライン診療，D to P with N，医行為，特定行為研修，へき地医療

Abstract

Objective To ensure sustainable medical access in remote areas facing population decline and aging, online consultations where a nurse is present with the patient (D to P with N) are highly anticipated. This study aimed to clarify the current status, challenges, and future needs regarding medical procedures performed by nurses within the D to P with N model.

Methods This study utilized secondary data from an anonymous, self-administered online survey conducted in 2025, involving 81 physicians and nurses with experience in D to P with N. Descriptive statistics were calculated for the status and challenges of medical procedures, and correlations with factors such as years of service were analyzed.

Results In addition to assessment, nurses performed a wide range of medical procedures, such as specimen collection and wound treatment under remote instructions. In particular, those who completed specific procedure training performed significantly more invasive medical procedures than those who did not, and a positive correlation was also observed between years of service and experience with medical procedures. There was also a high intention to perform these procedures in the future, indicating a potential need.

Conclusion D to P with N can be an effective model for improving medical quality in remote areas. For its widespread adoption, it is essential to establish educational systems to ensure safety and resolve institu-

tional issues, such as clarifying legal responsibility and ensuring appropriate medical fee reimbursement.

keywords: Telemedicine, Doctor to Patient with Nurse (D to P with N), Clinical procedures, Specified Medical Acts Training, Rural Medicine

I. 目的

人口減少・高齢化が進行するへき地において、持続可能な医療アクセスを確保するため「看護師同席型オンライン診療 (D to P with N)」の活用が期待されている[1]。本研究は、同モデルにおける看護師の具体的医行為の実態、実施上の課題、および今後のニーズを明らかにすることを目的とした。

II. 研究デザインと方法

1. 研究デザイン

令和7年度厚生労働科学特別研究事業の調査データを二次利用した横断研究。

2. 調査概要

2025年9～11月に、D to P with N経験のある医師・看護師81名を対象に無記名自記式オンライン調査を実施。項目は基本属性、医行為等(検査行為・注射行為・処置行為、アセスメント、生活支援に区分される134項目)の経験・意向、課題等とした。

3. 解析方法

基本統計量の算出に加え、特定行為研修修了の有無による比較(カイ二乗検定等)や勤続年数と医行為経験数の関連(Spearmanの順位相関係数)を解析した。有意水準は5%未満とした。

III. 結果

調査対象は医師38名(46.9%)、看護師43名(53.1%)で、看護師のうち6名(14.0%)が特定行為研修修了者であった。

医行為等の実施状況について、「検査・処置・注射」では、血液検査(58.0%)や創傷処置(39.5%)の実施が多く報告された。一方で、注射行為は全体に実施経験が少なく、点滴注射(29.6%)が最多であった。「アセスメント」では、全カテゴリで最も実施率が高く、バイタルサイン測定(85.2%)、酸素飽和度測定(77.8%)、疼痛部位の確認(71.6%)、聴診(67.9%)など、医師の身体診察を補完する行為が定着していた。「生活支援」では、生活指導(60.5%)や、家族・関係者への連絡(43.2%)など、実務的な支援も広く行われていた。

特定行為研修修了者は、未修了者に比べ、侵襲性を伴う行為や高度な判断を要する項目で有意に高い実施率を示した。「脱水の判断と輸液補正(50.0%対16.2%)」、「病態に応じたインスリン投与量調整(50.0%対18.9%)」、「超音波検査(66.7%対10.8%)」、「末梢静脈ルート確保と輸液投与(66.7%対21.6%)」において、大きな差がみられた(いずれも $p < 0.05$)。また、勤続年数と医行為等の実施経験にも正の相関が認められた($\rho = 0.42$, $p < 0.01$)。

今後の実施意欲については、未経験だが実施を希望する項目として、予防接種(83.7%)や12誘導心電図(76.7%)、超音波検査(69.8%)が挙げられた。一方で、気管内挿管や縫合などの極めて侵襲度が高い処置への希望は認められなかった。

IV. 考察

看護師は遠隔指示下で幅広い医行為等を実践しており、特に特定行為研修修了者はその専門性を顕著に発揮していた。現在は未実施であっても今後の実施意向が高い項目が散見されることから、D to P with Nにおける看護師による医行為等実施の潜在的なニーズは大きい。一方で、普及に向けては、看護師の技術と安全性を担保する教育体制の整備、および遠隔診療下での責任の明確化が重要な課題と考えられた。

V. まとめ

D to P with Nはへき地医療の質向上に寄与しうる有効な方法であると考えられた。その持続的な普及には、教育体制の充実に加え、責任の明確化や診療報酬上の適切な評価といった制度的な環境整備が求められる。

文献

- [1] Uenishi M, Song P. Integrating medical Mobility as a Service (MaaS) with the doctor-to-patient with nurse (D to P with N) telemedicine model and pharmacist-supported medication services: Towards mobility-integrated care for Japan's super-aged population. *Global Health & Medicine*. 2026;8(2):81-89. doi:10.35772/ghm.2026.01044